

目次

1. 教職課程ニュースレター第3号に寄せて
2. 情報提供のお願い
3. 運営委員便り
4. 教育実習生の声
5. 卒業生教員の声
6. 教員採用試験合格状況
7. 教職フォーラムのご案内
8. 教職研究紀要投稿のご案内

<教職課程ニュースレター第3号に寄せて>

教職課程教育センター長
西川 信廣



卒業生の皆様におかれましては益々ご活躍のこととご拝察申し上げます。

この度、京都産業大学教職課程ニュースレター第3号を刊行することができました。

ニュースレターの発行は今年で3回目となりますが、卒業生の皆様との紙面やメール等での交流も進みだしております。これからも紙面の充実に努め、卒業生の皆様と在学生、教職員の交流の輪が広がるように努力して参ります。

平成27年7月5日には本学むすびわざ館で「OB・OGむすびわざ交流会」が開催され、50名以上の本学卒業生教職員（教育委員会職員を含む）のご参加をいただくことができました。皆様ご多忙の中、本学の交流事業にご参加いただき、この場をお借りいたしまして心から御礼申し上げます。在学生と先輩との交流会では積極的かつ熱い議論が交わされ、在学生たちも皆感

激しておりました。

教職課程教育センターといたしましても、今後とも卒業生諸氏と本学教職員、在学生との交流の活発化を推し進め、京都産業大学を軸とした人と人との絆を強めることに力を注ぎたいと考えております。

既にご承知の通り、教員養成制度のみならず学校教育全般にわたる広範な改革が進められようとしています。平成27年6月には学校教育法が改正され、9年制の義務教育学校が法制化されました。複数の小・中学校が学園構想のもと、協力して義務教育の質的向上を図ることを目的とする小中一貫型小・中学校も文科省令で法制化される予定です。義務教育は6・3制、という既存概念も変えざるをえない状況になっています。これらは15歳の学力に責任を持つために、義務教育関係者や教育委員会が地域の課題と特性を見定め、それにあつた取り組みを進めるための施策であると理解されています。卒業生の皆様が勤務される地域ではどのような取り組みが進みつつあるのでしょうか。ぜひ、在学生にお話いただける機会を持ちたいと考えております。今後とも卒業生の皆様の多大なご支援を願ひしまして、ご挨拶とさせていただきます。

<情報提供のお願い> ※返信用はがきを同封しております。



教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている本学卒業生とのネットワーク構築のために、卒業生の皆様に情報の提供をお願いしています。

今後、教職志望の在学生との交流や教員免許状更新講習等のご案内も行っていきたいと考えております。

つきましては、同封の返信用はがきに現在のご勤務先等の情報をご記入いただき、プライバシー保護シールを貼付のうえ、教職課程教育センターまでご返送いただきますよう、お願いいたします。

※ご記入いただきました個人情報については、「京都産業大学プライバシーポリシー」に基づき、京都産業大学における業務以外の目的には使用いたしません。

<運営委員便り>

共通教育推進機構

柴原 弘志 教授

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

私は、本年度より京都産業大学の教職員に加えていただきました柴原と申します。

幅広い教養知識と国際社会で活躍できる専門知識の修得に加え、「日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤」とする「高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、社会的義務を立派に果たし得る人」の育成をも高らかに掲げておられる本学の「建学の精神」には、かねてより魅せられておりました。卒業生の皆様、そして教職員をはじめとする関係各位の本学に対する思いを受け継ぎ、精一杯務めさせていただく所存です。

現在担当しています授業は、「教育実習」の事前事後指導をはじめ、社会科や公民科の「教科教育法」、「学



級・学校経営の理論と方法」、「道徳教育論」等に加え「教職ゼミナール」なるものがあります。このゼミナールは、西川信廣教職課程教育センター長の本学教職課程に対する並々ならぬ思いより創設されたものです。本年度、その第一期生にあたる学生たちは、教職への高く強い志をもち、この後2年半にわたり切磋琢磨する中で「本物の教師」への資質・能力を身に付けようと奮闘しております。本学の先輩が勤務する学校での学外演習におきましても、通常の教育実習では見出せないであろう生徒や教師の姿や課題を前に、熱のこもった議論を交わしていました。

どの授業におきましても、学生たちは、卒業生の皆様が各学校で大切にしておられる言語活動を重視した学習に取り組んでいます。とりわけ、昨年公表された「OECD 国際教員指導環境調査」結果でも注目された「批判的思考力」や「メタ認知」育成に資する活動として、全員がネームプレートによる意思表示をもとに議論を深める学習にも慣れてきています。素晴らしい後輩教員のデビューを心待ちにしてください。

<教育実習生の声>

母校の中学校での教育実習はあっという間に終わってしまいました。1年生、3年生の英語の授業を担当し、またサッカー部の指導もさせていただきました。始まる前は楽しみであると同時に、不安もありましたが、終わってみると、教育実習は自分にとって多くの発見があった3週間でした。

最初の1週間は、指導教員の方の授業を見学しました。生徒が授業を受けるような目線ではなく、「自分だったらこの場面で生徒にどんな指導や声掛けをするだろうか」ということを考えながら授業を見学しました。それだけでなく、自分でも教室内を歩き回り、なるべく多くの生徒に声を掛けたり、生徒の様子を観察したりしながら、授業の見学を行いました。このことで、生徒それぞれの特徴を理解することができ、生徒にも自分のことを知ってもらった状態で2週目からの授業実習に臨むことができました。実際に私が授業をするようになると、緊張で指導案通りに授業を進めることができないこともありました。しかし、1週目に生徒と積極的に関わっていたおかげで、多くの生徒が発言してくれ、また私もそれぞれの生徒に合った声掛けや指導を行うことができました。

私はこれまで、授業力というものは、教師の高い専門性と、それを分かりやすく噛み砕いて教える力から成り立っていると考えていました。しかし実際は、授業成立のためのベースには、生徒を理解することや、生徒指導力があるということはこの教育実習で学びました。学んだことを胸に刻み、子どもと共に生涯学び続ける教師を目指します。

○平成27年度教育実習生数

学部	教育実習生数 ()は昨年度数
経済	23 (14)
経営	12 (16)
法	20 (19)
外国語	21 (13)
文化	17 (15)
理	37 (39)
コンピュータ理工	0 (3)
総合生命科	13 (8)
合計	143 (127)

※科目等履修生を含む

<卒業生教員の声>

滋賀県立国際情報高等学校
山下 亜希子 先生



平成9年3月に外国語学部英米語学科を卒業し、講師を3年経験した後、滋賀県の高校教員となりました。今年で教員生活16年目になります。現在は教務課で国際交流を担当し、部活は水泳部を指導しています。授業や学校行事、部活動といった日々の生活の中で生徒が成長していく姿を目にし、また喜びや悲しみを共有できることに教師としての幸せを感じています。

私が教師になろうと決めたのは高校生の時です。当時、英語が一番苦手な科目でしたが、1年生の時に出会った先生のおかげで得意科目となり、「英語教師」を目指すようになりました。

“education”（教育）という語は、ラテン語の“educ”（引き出す）が語源です。教育とは子どもたちに知識を詰め込むのではなく、その子が持っている個性や能力を引き出してやることだと思います。

教師を目指す皆さんには教職科目、専門教科の勉強はもちろんですが、学生のうちに多くの経験をし、多種多様な人々との交流を通して、様々な価値観を学び、人間の幅を広げてほしいと思います。自らの体験を通して学習したことは、「生きた知識」であり、かけがえない「宝」です。

大学を卒業して20年近く経ちますが、私の中の「神山スピリッツ」は今でも健在です。教職を目指して頑張っている在学生の皆さんも京産大生としてプライドを持ち、失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジし、目標に向かって邁進してください。

近江八幡市立金田小学校
村田 晃帆 先生



平成27年3月に経済学部経済学科を卒業し、4月から小学校の教諭となりました。現在3年生の担任をしています。

大学では佛教大学の通信教育課程を併修し、小学校教諭の免許状を取得しました。大学時代に力を入れたことは、週1回で約1年半続けた小学校での学習支援ボランティアです。そこでは授業の支援や自習監督、丸つけ、運動会の手伝いなど貴重な経験を積むことができました。何より子どもたちとの関わりは、悩むことも多かったですが、それ以上に先生になりたいという思いをより熱く奮い立たせてくれるものとなりました。

私のクラスは36人です。36人それぞれの成長を身近で感じることができます。授業を組み立てるとき、「どうすれば子どもたちが興味をもってくれるだろうか」「どんな教材を作れば学習に苦勞している子も理解できるだろうか」と考えています。実際授業をしてみると、上手いかないことがほとんどですが、上手いときの「先生、わかった!!」「もっとこの問題やりたい」など子どもたちの反応をみると、「よっしゃ、次はもっといい授業をつくらう」となります。信頼してくれているクラスの子たちを裏切らないように、子どもたちの力を引き出せる教師になれるよう日々努力し、一緒に成長していきたいです。

在学生の皆さん、教師という仕事は辛いことや大変なことも多いと思います。それでも教師を続けるのにはそれだけの楽しみや喜びがたくさんあるからです。目標に向かって頑張ってください。

<教員採用試験合格状況>

○新規教員採用状況

年度		2012(平成24)	2013(平成25)	2014(平成26)
既 卒	公立学校正規教員	41	44	34
	合計	72	67	62
現 役	公立学校正規教員 ()は公立学校受験者数	9 (63)	6 (54)	6 (58)
	公立学校期限付き教員	17	15	18
	私立学校教員(常勤)	5	2	4
合計		72	67	62

※現役生には科目等履修生・大学院生を含む



<教職フォーラムのご案内>

教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている卒業生の皆様と教職を目指している在学生との交流会として「教職フォーラム」を開催いたします。

教育現場で起こっている問題を取り上げながら、今後の学校教育の在り方について考えるプログラムとなっていますので、ぜひご参加ください。教職フォーラムの情報については、本学HPにも公開いたします。

▽URL : <http://www.kyoto-su.ac.jp/>

※昨年度実施風景



◆日時：平成27年11月7日（土）13：30～16：30

◆場所：本学5号館3階5303教室

◆定員：390名

◆内容：

①基調講演「小中一貫教育の取り組み」（予定）

京都市立開晴小学校・開晴中学校長 初田幸隆 氏

②本学卒業の現職教員による実践報告

京都市立向島東中学校 山岡洋一 氏

③卒業生、在学生によるディスカッション

◆申込期日：**11月6日（金）** ※郵送の場合は必着

◆申込方法：

*郵送による申し込み…本紙に同封の返信用はがきに参加希望の旨をご記入いただき、ご返送ください。

*メールによる申し込み…必要事項〔お名前（ふりがな）、ご勤務先、お電話番号〕をご記入いただき、アドレス（kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp）までお申し込みください。

<教職研究紀要投稿のご案内>

教職課程教育センターでは、毎年4月に『京都産業大学教職研究紀要』を刊行しております。

本学をご卒業された現職教員または教育関係にお勤めの皆様にもご投稿いただくことが可能です。皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

<投稿要領>

1. 投稿種別 実践記録
2. 原稿量 400字詰め原稿用紙50枚以内
3. 投稿内容
 - (1)原則、教職課程における教職および教科に関するもの
 - (2)未発表のもの
 - (3)図版や統計資料を掲載する場合は、指定の原稿枚数に含めること

4. 投稿方法

原則、Wordで作成し、記録媒体（CD-R等）を添えて、当該年度の11月末までに教職課程教育センターまで提出してください。（原稿には、邦文および英文のタイトルと要旨を添付すること。）

5. 特記事項

- (1)本論集に掲載された論文等の著作権は、京都産業大学に帰属する
- (2)投稿には個人情報保護法および人権上の問題が生じないよう配慮のこと

※研究紀要のバックナンバーについては、本学の「学術リポジトリ」にて閲覧可能です。

▽URL：<http://ksurep.kyoto-su.ac.jp/dspace/>

<発行・お問い合わせ先>

<発行>

京都産業大学教職課程 News Letter 第3号

発行日：平成27（2015）年9月30日

編集発行：京都産業大学 教職課程教育センター

<お問い合わせ先>

京都産業大学 教職課程教育センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

TEL:075-705-1479 // FAX:075-705-1448

E-mail : kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp

